

クローズアップ

伝え継がれて四百年。諏訪神社で秀吉ゆかりの獅子が舞う。

諏訪神社の秋祭り、最大の見どころといわれる獅子舞。秀吉が奉納したと伝わる古来の獅子舞が見られるのは、大阪市内では諏訪神社のみで、市の無形民俗文化財に指定されています。

今回は、諏訪神社獅子地車保存会会長の森田憲次さんにお話をうかがいました。

諏訪神社は、長野県にある諏訪大社の、全国に五千ある分社の一つ。創建の年代は不明ですが、境内に現存する古い石灯籠に『承和三年(836年)四月寄進』と刻まれていることから、平安時代に創建されたと考えられています。



境内にある腰掛天満宮の社の前には、菅原道真が筑紫へ左遷される時に立ち寄り、休憩をとった際に座ったとされる「腰掛け石」が祭られています。

無形民俗文化財に指定される雌の獅子「白雲号」

一獅子は、どのようにして城東区の諏訪神社に納められたのですか？

この獅子は、豊臣秀吉が天正18年(1590年)に天下統一をかけた小田原攻めで勝利したときに、大坂城鎮護の神と

して日頃尊崇している諏訪神社の靈験を得たとして奉納したと伝えられています。雌雄一対で、雄を「白雲号」、雌を「白雲号」と称していました。

残念ながら、明治18年(1885年)の大水害のときに雄獅子は流失し、現在は雌獅子の「白雲号」だけが残っています。一大きくて立派な獅子ですが、何でできているんですか？

獅子は、総毛の珍しいもので、馬の毛を使っているんですよ。白雲号は傷みが激しかったので、平成13年に兵庫県高砂市で修復しました。そのときレプリカも製作しましたが、現代人の体格に合わせて、胴の長さを30cm長くしたんです。秀吉が奉納したとされる白雲号は、大切に保管しており、祭りのときには社務所に展示しています。



平成7年に和歌山県御坊市で開催された「第37回近畿・東海・北陸ブロック民俗芸能大会」に出場、初めて獅子が諏訪神社の外へ持ち出されました。

CONTENTS

- 2 **クローズアップ** 伝え継がれて四百年。諏訪神社で秀吉ゆかりの獅子が舞う。
- 4 **おわび**
- 4 **トピックス** 城東区健康まつり/ピックアップ区政会議No.15
- 5 **お知らせ** マイナンバーQ&A/城東区進学説明会/医療証を更新/国民健康保険被保険者証を更新/城東区民センターの貸室使用申込開始/年賀状コンテスト2016作品募集
- 7 **健康** 特定健康診査/麻しん・風しん予防接種/予防接種・結核健診・各種がん検診等の日程
- 8 **相談** 城東区役所での専門相談/市民法律相談/各種相談/一日合同行政相談所
- 9 **イベント講座** 城東区体育厚生協会主催イベント/いきいき百歳大交流会/城東区食育展/高齢者学級「いちよう学園」受講者募集/キャンドルナイトin城北川/城東区榎並猿楽講座/小・中学生合唱参加者募集
- 12 **施設だより** 区民ホールの催し物/城東図書館の催し物/子ども・子育てプラザの催し物
- 13 **城東区通信** 雪いっぱい体験ツアー in いいやま/地域活動協議会/わくわく子育てクリスマスコンサート
- 14 **おおさか掲示板**



諏訪神社獅子地車保存会会長の森田憲次さん。秋祭り当日には、獅子舞の囃子方を務め、祭りを盛り上げます



「熱くて、もう汗だくで大変です。でも、舞い終えたときは達成感があり、やりがいがあります。これから後輩にも受け継いでもらえるよう指導していきます」と頭役の榎井琢磨さん



「竹製の籠と毛布で、こんなふうには練習用の獅子を作りました。白雲号と同じ重さにするために、籠の内側に鉄のおもりを付けているんです」と保存会の見守り博治さん

氏子の若者たちによる大迫力の舞いが観客を魅了

一奉納はいつ行われるんですか？ どの舞台になるのでしょうか？

毎年10月の秋祭り(今年は10月17日、18日)の夜に獅子舞の奉納が行われます。境内本殿前に、畳12畳ほどを裏返しに敷いて舞台をつくり、本殿正面以外の三方には細竹に括り付けた赤提灯を9本ほど立て、子どもたちが支えます。正面には「諏訪神社獅子舞」と書かれた弓張り提灯2張りを大人が持ちます。獅子の舞い手は、これを正面側の目印にします。一舞い手には、どんな人が選ばれるのですか？ 体力も要りそうですね。

舞い手には氏子の若者がなります。頭役と胴役の2人1組で、頭役は白足袋、胴



激しい動きをする白雲号の舞い。「雄獅子の白雲号の舞いは、さらに激しかったそうです」と森田会長

役は黒足袋をはきます。舞いの最中には「センマン」と呼ばれる介添え役が付きます。センマンは「先舞い」が訛ったとも言われていて、獅子舞を過去に経験している二名の先輩が務めます。一獅子舞が始まると、周りの雰囲気が一変するのでしょうか。

祭りの当日に本番の獅子舞を行うことを「ホンジシに入る」と言います。赤い提灯に火を灯して境内の照明を少し落とし、囃子の横笛、締太鼓、チャンポン(銅拍子)がけたたましく鳴られる中、神前で一礼した獅子が拝殿の中から現れ、頭を高く上げて集まった人々を見下ろし、舞いを始めます。一ダイナミックな動きをしていますが、舞いには、どんな型があるのでしょうか？

胴役が頭役を肩車する「カタクマ」、胴役が三点倒立をしたまま足を交互に動かす「タッチョコ」…舞いは頭役と胴役の二人が組み合っています。舞いの型には「ドウチュウ」「ハラガエシ」「カマクビ」など、すべて名前がついています。社務所にいろいろな型の写真がありますよ。

戦争で途絶えたものの、人々の熱い想いで復興

一戦時中は、獅子舞の行事はどうしていたのですか？

豊臣時代から獅子舞が始まったと伝え



昭和44年に撮影された記録用の写真。今でもこの写真を基にして、舞いの稽古をしています

られています。残念ながら昭和に入って戦争のため途絶えていました。でも、私の祖父たちが保存会をつくって、昭和43年(1968年)に復興させたんです。

そのときの指導者が教えたのが、明治中期の型です。この型を正確に伝承するために、昭和44年に記録写真を撮って残してくれたものが、社務所にある写真です。獅子の舞い手は、この写真を見ながら舞いの稽古をしているんです。一今年も貴重な文化財、獅子舞を見ることができるのは皆さんのおかげです。次の世代の方に受け継がれていきますよう、保存会の活動を応援しています。



昭和43年に復活した当時の獅子舞

今月の表紙

諏訪神社の獅子は、和紙を貼り合わせて漆工を加えた一閑張りで、馬の毛を使った毛獅子です。総毛の毛獅子は兵庫県内に分布していますが、大阪府内では他に例がない貴重なもので、平成15年度に大阪市無形民俗文化財に指定されました。秋祭りの獅子舞にはレプリカを使用します。

